2025年 秋の褒章

11月3日付で2025年秋の褒章受章者が発令された。本県関係では業務精励で県造園技能士会会長の古平貞夫氏（㈲古平園取締役、造園工・卓越技能）、県鳶・土木工業会会長の山関忠氏（㈱山関工務店取締役会長、建築鳶工・卓越技能）が黄綬褒章を受章。県内在住の受章者は17人（緑綬1人、黄綬9人、藍綬7人）。

古平（こだいら） 貞夫（さだお） 氏

㈲古平園取締役／茨城県造園技能士会会長

黄綬褒章

プロフィール

古平氏は1954年3月4日生まれ。71歳。県立上郷農業高等学校農業科卒業後、日本庭園の造園師になることを志し、73年から造園業を営んでいた外塚農園に勤務。77年に独立して古平園を設立した。84年に法人化し㈲古平園の代表取締役に就任。現在は同社取締役。

古平氏は50年以上にわたり第一線で活躍。形式にとらわれず時代にあった庭づくりを第一に考える。特に古平氏が考案した「雲仙敷き」と呼ばれる石のアプローチは御影石の平板を自由に加工し、明るい雰囲気を作り出す作品となっている。2024年に卓越した技能者厚生労働大臣表彰（現代の名工）を受賞。

また、20年から現在に至るまで県造園技能士会会長を務めている。高校生に梅の木の実践的な剪定方法を教えるなど後進の指導にも力を注ぐ。

受章に当たり古平氏は「これまでの自分の仕事をお認めいただいたことが大変うれしく、また光栄に思います。今後も技術の伝達や後進の指導に尽力し、造園業界の発展に微力ながら貢献してまいります」とコメントした。

山関（やまぜき） 忠（ただし） 氏

㈱山関工務店取締役会長／(一社)茨城県鳶・土木工業会会長

黄綬褒章

プロフィール

山関氏は1949年6月25日生まれ。76歳。中央工学校測量科卒。88年に㈱山関工務店代表取締役。2023年に取締役会長に就任し現在に至る。業界団体では24年から県鳶・土木工業会の会長、県鳶・ブロック建築技能士会の会長などに就き業界の発展に寄与している。

山関氏は卓越した技能と長年の経験に裏付けされた知識・ノウハウを有する。施工中に発生する各種問題へ事前に対処する感性と五感で感じとる力を備え、年間を通して安全で完全な施工を実現している。

特に地元つくば市筑波山の山頂における諸施設の仮設設置及び解体には数多く携わっている。24年には卓越した技能者厚生労働大臣表彰（現代の名工）を受賞。

受章に当たり山関氏は「半世紀以上の長きにわたり、この道一筋に邁進してまいりました。このたびの受章は関係者及び同業者の皆様の力添えによるものと感謝しております。受章に恥じぬよう今後も研鑽に励み、物を造る達成感が若い世代に魅力のある仕事と映るよう、若者が増えるような環境造りに努力してまいります」とコメントした。

約100人で意識高揚

全員で安全作業推進誓う

多賀土木㈱

多賀土木㈱（日立市、松山昭彦代表取締役社長）と安全協力親和会（鈴木博巳会長）は10月21日、安全大会を日立市の日立地区産業支援センターで挙行した。当日は約100人が参加。表彰や講演を通じて安全意識の高揚を図るとともに、安全作業の推進を誓い合った。

安全大会 2025年度

大久保署長

鈴木会長

松山代表取締役社長

大場主任監督官

木村署長

冒頭、松山代表取締役社長が「この1年、皆さまのたゆまぬ努力により昨年に続いて無災害を達成できたこと、感謝申し上げる。建設業を取り巻く環境は厳しい状況が続いているが、建設業のプロ集団として、安全に対してしっかり取り組んでいかなければならない」と述べ、「本日の安全大会を通して、安全意識の再認識に努めていただきたい」と呼び掛けた。

鈴木会長は「一人一人が安全への意識改革を行い職場全体の安全性を高めることで、誰もが快適に働ける環境づくりに努めることができる。安全大会を契機に、良い職場づくりにつなげていただきたい」と述べた。

続いて、大会までの1年間、安全に対して功績のあった4者を表彰。松山社長が表彰状を贈呈した。

来賓挨拶では、日立労働基準監督署の大久保一樹署長が管内の労働災害発生状況を説明し、「今後も安全な作業を続けていただくとともに働きやすい職場づくりを目指し、地域のお手本になることをお願い申し上げる」と呼び掛けた。

日立警察署の木村大樹署長は「警察だけでは犯罪や交通事故を防ぐことはできず、皆さまの協力が必要不可欠。警察としても安心・安全が実感できるよう努めていく。ご支援、ご協力をいただければ」と述べた。

その後、日立労働基準監督署の大場廉太郎第三方面主任監督官が「建設現場における安全対策について」と題して講演を行った。

そして、菊地広美安全衛生副委員長が安全宣言。労働災害防止活動を第一に掲げ、安全作業を推進することを誓った。

表彰の受賞者は次のとおり（敬称略）。

■斉藤幸次（今川建材㈱代表取締役）
■小椋裕子（㈱宗栄代表取締役）
■鬼沢泰裕（多賀土木㈱土木部）
■藤原正樹（多賀土木㈱建築部）

▲安全大会を通じて安全作業の推進を誓い合った

道路清掃活動を実施

カーブミラーなど美化

県常陸太田工事
茨建協太田支部

地域貢献活動

栗原所長

梅原支部長

県建設業協会太田支部（梅原基弘支部長）は10月22日、「道路ふれあい月間」における道路の清掃美化活動を行った。県常陸太田工事事務所（栗原栄所長）と市と合同で実施しているもので、計約50人が参加。国道293号や国道349号などの歩道のごみの回収と、カーブミラー163基246枚の清掃を行った。

8月の「道路ふれあい月間」にあわせ、道路愛護思想の普及・啓発を図ることを目的に道路の清掃美化活動を実施。例年8月に行っていたが、猛暑や熱中症などを考慮して2023年度から10月に実施している。

常陸太田合同庁舎で行われた出発式で、栗原所長は「地域住民の皆さまや行楽シーズンで県北を訪れた方々に、より安全・快適に道路を利用していただきたい。そしてこの清掃活動が、道路美化への関心を高める一助となれば」とあいさつ。

梅原支部長は「道路は生活の中で身近なものであり、生活や防災の面において有意義で価値の高いものとなっている。清掃を通して、道路の意義を改めて考えながら活動を行ってほしい。事故に注意し、作業にあたっていただきたい」と呼びかけた。

その後、作業や注意事項を確認し、各地区に分かれて清掃美化活動を開始。地域美化に貢献した。

▲カーブミラー246枚の清掃を実施

▲出発式後に記念撮影を行った

約120人が清掃に尽力

道路のごみ拾い美化

県常総工事
茨建協常総支部

地域貢献活動

藤原所長

中川原支部長

県常総工事事務所（藤原輝夫所長）と県建設業協会常総支部（中川原勇支部長）は10月22日、道の日にちなんだ道路美化活動を実施した。同事務所職員や関係市町職員、支部会員など約120人が参加。国道や県道など計約12㎞区間で道路の清掃活動に尽力した。

参加者は下妻市・常総市・八千代町の3地区に分かれて集合。作業路線は下妻市内の国道125号線・県道下妻停車場線・下妻市道、常総市内の国道294号線・県道土浦境線・常総市道、八千代町内の県道結城坂東線・県道若塚線・八千代町道の計約12㎞。

常総地区では常総市地域交流センターに集合。藤原所長は「今年は暑さを考慮してこの時期の実施となった。道路がきれいになることが利用者の道路愛護の啓蒙につながってほしい」とコメント。

中川原支部長は「県・市町・協会が連帯して活動することで道路美化の関心が高まり、建設業のイメージアップにもなれば」と期待した。

参加者は歩道や植え込みに投棄されたペットボトルや空き缶、紙ごみなどを回収。集められたごみは3地区合計で約120kgになった。

道路美化活動は「道路ふれあい月間」の取組みの一環として実施。活動を通じて建設業界のイメージアップや道路管理の大切さを訴えた。

▲県道など道路に落ちているごみを拾い集めた

▲約120人が清掃活動に尽力した

共創のまちづくりへ

日立市でシンポジウム

県など

県などは、まちづくりシンポジウム2025を今月21日午後1時30分から日立シビックセンターで開催する。参加費無料（事前登録制）。森本章倫早稲田大学理工学術院社会環境工学科教授が「次世代交通と共創のまちづくり」と題して基調講演を行う。

テーマは『持続可能な社会の実現に向けた共創のまちづくり』。主催は県、日立市、県都市計画協会。

日立市では市民・企業・行政などが一体となり、地域課題の解決を目指して共創によるスマートシティの実現に取り組んでおり、シンポジウムでは小山修共創プロジェクト推進本部部長が日立製作所とともに取り組む次世代未来都市共創プロジェクトについても紹介する。

問い合わせは、都市計画課（電話029－301－4583）。

市道の側溝改修 指名競争は年内

《下妻市》

下妻市は、市道7093号線（下栗地内）の側溝改修工事を実施する。年内の発注を予定しており、発注方式は指名競争入札を想定。工期は4カ月ほどを見込んでいる。

施工延長は約60m。場所は下栗コミュニティセンターの東側。

側溝に蓋がない状態であることから、これを改修し、地元要望に応えて通行の安全性を確保する。工法については検討中であるとのこと。

新たな産業用地調査

AN計画工房へ委託

小美玉市

小美玉市は、新たな産業用地の確保に向け、適地選定業務を㈱AN計画工房（水戸市）へ委託した。10月23日に委託に係る指名競争入札を執行し、落札金額は248万円（税抜き）だった。

今回、委託した業務では、茨城空港周辺や空港アクセス沿道エリアなどを中心に、新規企業の進出に向けた立地整備や適地選定を行う。新たな企業立地により新規雇用の創出や税収確保、茨城空港周辺のにぎわいづくりにつなげ、地域振興を図りたい考え。

生コンなどが上昇

土木資材単価表を改定

茨城県

県土木部は、2025年度土木工事等建設資材単価表を1日から改定した。前回からは生コンクリートや水中コンクリート単価などが変更となっている。

生コンクリートは竜ヶ崎工事、潮来土木、土浦土木、筑西土木、常総工事、境工事で各規格が上昇した。

水中コンクリートについては、潮来土木管内で各規格が㎥あたり3300～3600円上昇。高炉スラグ骨材使用の水中コンクリートについても、潮来土木管内で各規格が㎥あたり3300～3600円上昇している。

なお、茨城空港隣接地は、朝日航洋㈱が新たなヘリコプター整備事業拠点の設立を計画。稼働予定は2027年4月。同社はことし7月、創業70周年を迎え社名を「エアロトヨタ株式会社」に変更している。